

# せとうち美術館ネットワーク 特別講演会 2016



美術館教育へのアプローチ  
～ワークショップほかHands-On, VTS, AL…手法を探る～

2016.11.27

前田ちま子

# 項目

- 1 ニューヨーク近代美術館 (MoMA=Musem of Modern Art)  
ビクトル・ダミコ：ワークショップ Workshop
- 2 対話型鑑賞法 VTS = Visual Thinking Strategies  
ニューヨーク近代美術館
- 3 こども博物館：ハンズオン Hands-on  
Interactive Approach: Hands-on + Minds-on
- 4 子どもの城：ワークショップ=展示・体験・制作
- 5 博学連携：初めて出会う作品への興味と関心
  - ・博物館、美術館、児童館、回想法センターなど他機関の交流
  - ・雑録的観察眼+動的鑑賞学習
- 6 アクティブ・ラーニング：Active Learning
  - ・ワークショップの企画
  - ・英語による美術の学習および美術による英語の学習方法  
　－ワークショップ環境における協同学習の視点から－

## 5 博学連携：初めて出会う作品への興味と関心

- 博物館、美術館、児童館、回想法センターなど  
他機関の交流
- 雜録的観察眼+動的鑑賞学習

# 大学と美術館の連携

## －はじめての出会いから－

- 学生が作品にはじめて出会った気持ちや印象をもとにプログラムを創案していく。一般来館者の視点に寄り添うメリットがある。
- 大学、美術館に出向き、数回にわたり案を検討する。
- 学芸員と学生とのコミュニケーション。
- ギャラリートーク、ワークショップのシミュレーション
- 修正
- 実施
- 反省
- 活動を冊子にまとめる

名古屋ボストン美術館 「めかくし探検隊」



“Explore with Eye Mast™ at Museum of Fine Art, Boston in Nagoya in 2004  
マックス・ウェーバー《三人の文学紳士》



子どもの城造形スタジオ「子どもクリエイティブクラブ」1986  
盲目の男児メンバーの体験を共有ために目隠しをして作品を触る。

ギャラリートムにて: Touching at Gallery Tom/Touch Gallery in 1986, Tokyo

## プログラム NICE SHOT(ナイスショット)



作品の「構図」が気になった学生は絵画のモチーフを立体に作ったものを用意する。  
子どもたちがそれらを触って並び替え構図を試行錯誤する。

# 美術館と大学の連携プログラム

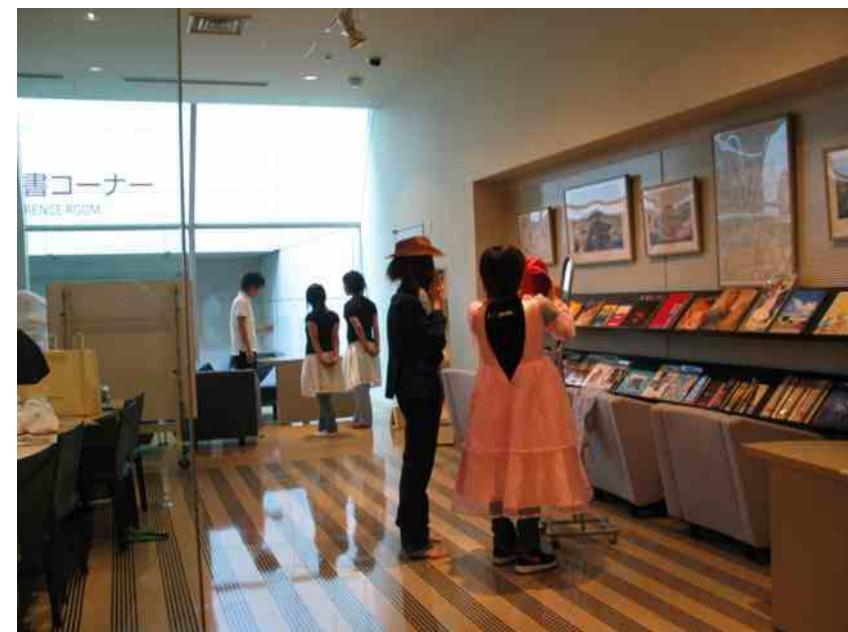
## 「愛しき人々 巨匠たち展」

教育プログラム

● GO GO びじゅつかん！ ●

「きみが主人公！」

「そざいのヒミツ」



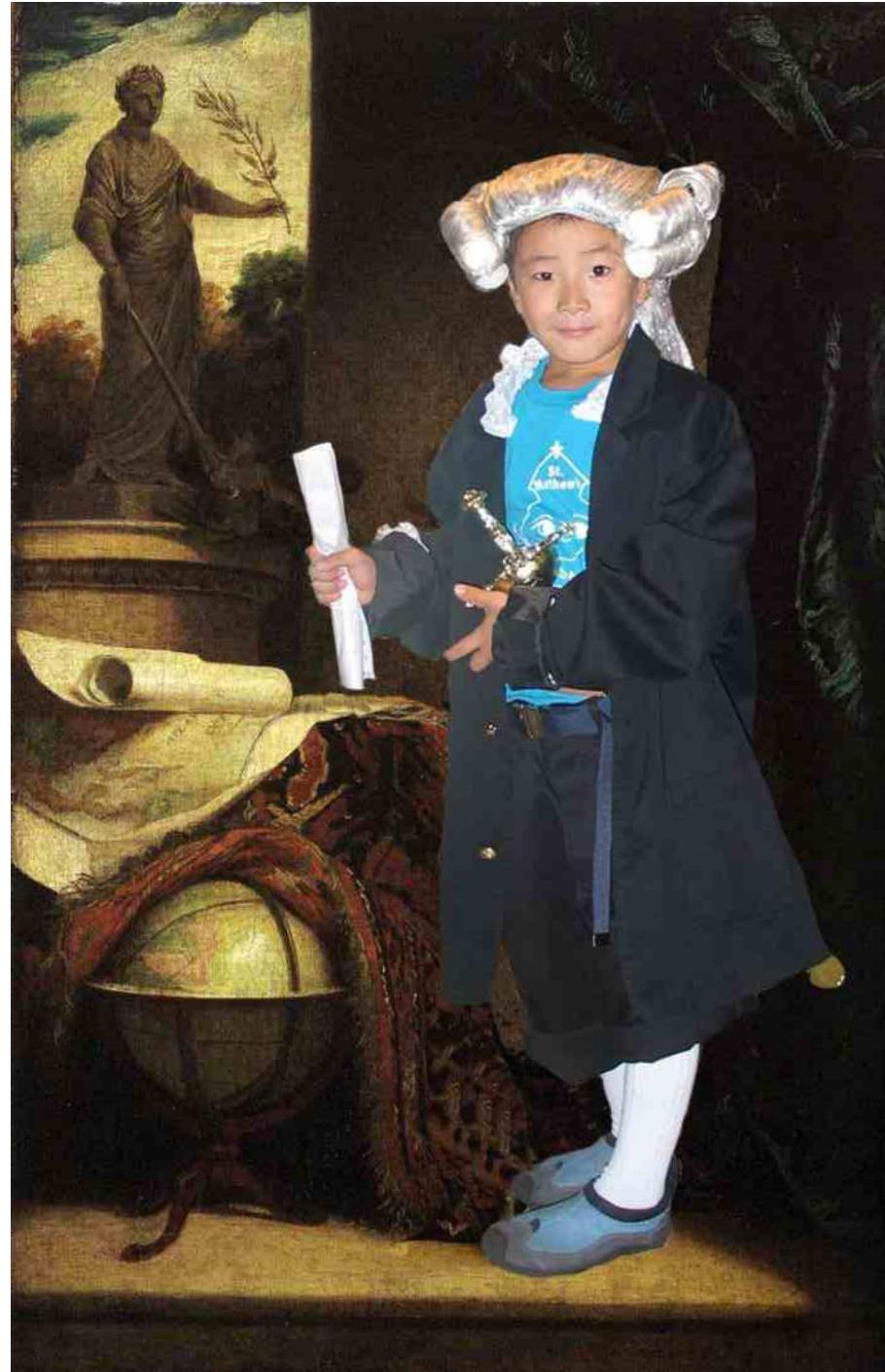
準備中 美術館図書館コーナーにて



教育プログラム  
● GO GO びじゅつかん！ ●  
「きみが主人公！」



学生準備中  
美術館にて



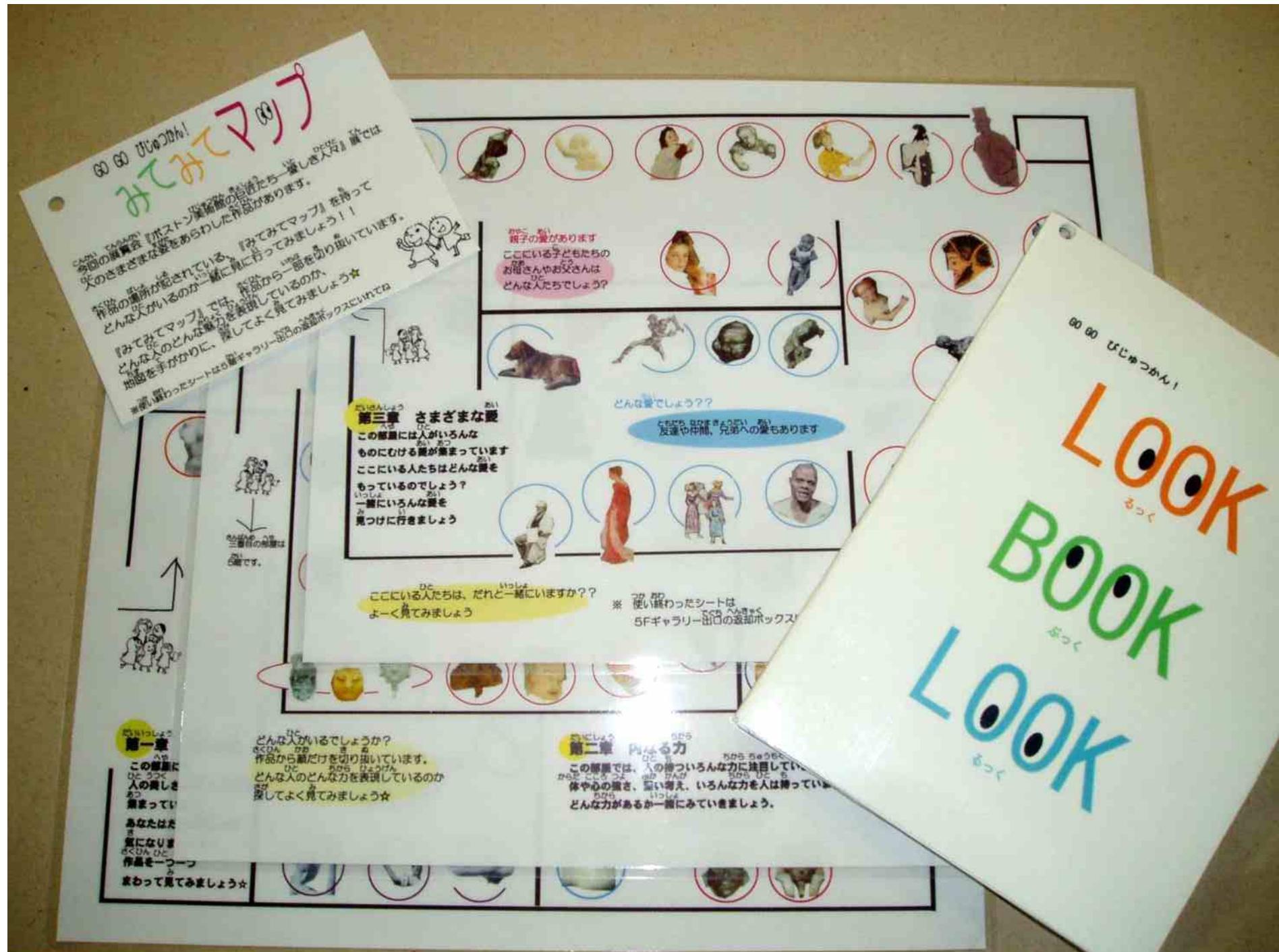
You are a Hero!  
“John Adams”



You are a Hero!  
“Dance at Bougival”



そぞいのヒミツ “What is this material like?”



セルフガイド：美術館の特性フロアーマップも作成

# ワークシート：正解のある答えではなく作品をよく見るためのもの

## Worksheet “Statuette of the birth of Aphrodite”

した  
下のように見える場所は  
どこですか。



( ) 色のあしあと



( ) 色のあしあと

この像をよくみてみよう！

Go Go びじゅつかん！

《アフロディーテ》  
ワークシート

- 「アフロディーテ」のまわりをぐるっと囲って、像をよく見てみよう！
- ①と②と③のように見える場所をそれぞれ見つけてみよう！
- ④の位置を見つけよう！

なまえ

きい

何をしようとしているのかな？どんな所にいるかな？見ている像から思い浮かんだ背景や顔や手を想像して描いてみよう！

④



♪5階の図書コーナーに色鉛筆もあるよ！ Go Go!

名古屋ポストン美術館+名古屋芸術大学美術文化学科アートエデュケーション研究室

ワークショップでは美術館周辺の環境も利用



名古屋市美術館「ニキ・ド・サンファル展でのワークショップ  
制作後に身体を解放するために美術館の池を利用して活動を展開する。











絵具を詰めた白い石膏を射撃で打ち抜いたニキの作品を追体験する。

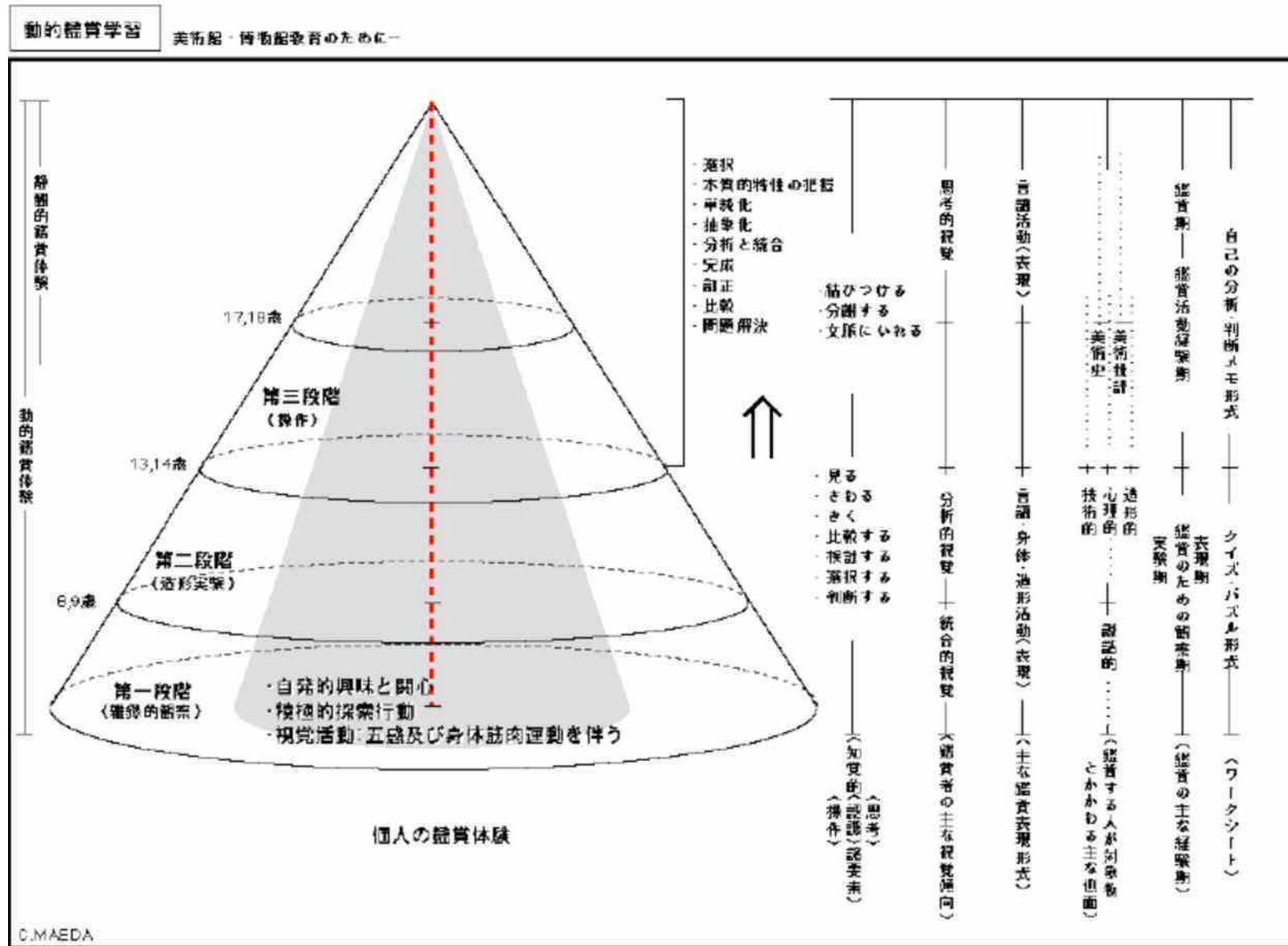


小学校高学年では小グループに分かれ大学生がリーダーになって、互いに意見を出し合い制作内容を決めていく。



2日間のワークショップでは、活動の様子を親や引率の大人に伝えるために活動終了後に無編集の動画を上映する。

## 動的鑑賞学習の図式：1人の成長過程で鑑賞の経験や学習をするプロセスを仮設したもの



(1981年前田作成)

## 雑録的観察眼

- 主観的判断つまり統合レベルでの美の基準を自由に表現することは、個人の積極的な視覚探索を促す最も基礎的な出発点である。「雑録的観察眼」をもち分析的時期に至るなら、より明確に「鑑賞」と「観察」の眼を深めることができるのでないか。鑑賞は分析的観察を避け、観察は情緒的主観的鑑賞性を避ける。子どもがそのどちらを選ぶかという立場にたたされるようなことがあってはいけない。
- 「観察」とは「物事の状態や変化を客観的に注意深く見ること」。生物・科学の観察は、子どもの主観的好き嫌いのレベルを許すものではない。つまり今日では生物・科学において雑録的観察眼は必要とされていない。
- そこで、「雑録的観察眼」は美術における統合的視覚に結びつき、鑑賞における視覚的探索活動の媒体となる必要があるのでないだろうか。

北名古屋市回想法センター  
北名古屋市歴史民俗資料館  
(昭和日常博物館)

大学生によるシニアのためのワークショップ

世代間の交流、昔懐かしい体験の共有、美術の視点からみた  
昔遊び、学生の専攻とアイデアを生かしたワークショップ…

# 美大生が実施する アートワークショップによる 回想法の試み

- 2007年から「美大生と高齢者が世代を超えて、美術を通じて交流することによって、互いに生き生きとした人生を送る契機になるであろう」との視点に立ち、美大生と高齢者がワークショップを通じて出会う機会を設ける授業を実施。名古屋芸術大学美術学部美術文化
- 「回想法シンポジウム2010」でパネル発表。

-----北名古屋市回想法センターHPより-----

## 回想法とは

アメリカの医師ロバート・バトラー(1963)によって提唱され、昔懐かしい生活用具などを用いて、かつて自分が経験したことを探しあながら皆で語り合うことによって、脳を活性化させ、気持ち(心)を元気にする心理・社会的アプローチが回想法です。

回想法は、対人交流や情緒の活性化、高齢者のQOL(生活の質)向上などに効果があるといわれています。

## 地域回想法とは

回想法は、既にわが国でも臨床に応用されたり、施設で取り入れられたりしていますが、北名古屋市では、回想法を日本で初めて地域の中に取り入れ「地域回想法」として介護予防、認知症予防や地域づくりを目的に「思い出ふれあい事業」として実施しています。保健福祉の地域のケアに位置付けて実施しています。

昔遊び「折紙、貼り絵、紙芝居」









名古屋ボストン美術館「ゴーギャン展」で実施するワークショップの  
シミュレーションに協力していただいている回想法センターのシニア







版画専攻の大学院生による手軽にできる「糸版画」「消しゴム版画」のワークショップ







カルタの読み札はシニア、絵は学生が描いたコラボレーション後の「カルタ取り大会」





孫とペアになってキャンバスにダイナミックに描くシニア。大学構内で「五感を開く」ワークショップ





